全国焼肉協会総会

肉協会（新井泰あいさつ）は5月19日、東のホテル「グラティック LEA」で第3回通を開催した。議27年度の事業報度の事業計画なされ、全議案がた。

先だち、あいさ井会長は「25年肉店の売り上げフードサービスータをみても他態と比べても伸。明確な理由はないが、ユッケや北米産牛肉輸入規制の緩和などが考えられる。その一方で、牛肉価格の高騰により焼き肉店ではコストアップを余儀なくされ、収益を大きく圧迫している」と述べた。

さらに昨年起きたメニュー誤表示問題にも触れ、「各業界団体と連携

会員に対し謝辞を述べる米会長

「表示には自主取り組みを強化する」と新井会長

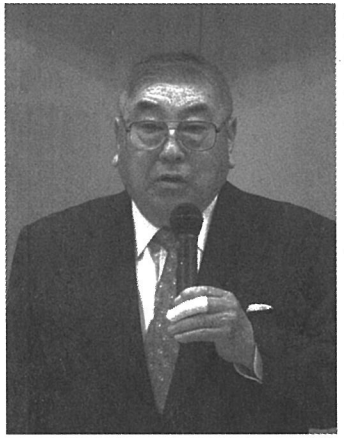
発部門）、㈱トラジ（金信彦代表取締役、商品開発部門）が輝いた。

また、総代会終了後には第2部として経営者・店長研修会が開催され、㈱トータルフードの小倉朋子代表取締役が「現代食志向、食べ方をひも解く～おいしいをつくるには～」と題した講演を行ったほか、「創業者と2代目～店舗運営について～」をテーマに座談会が開催された。

進められ、須山禎治副理事長が開会の辞を述べた。上野理事長は「年々、組合員が欠けている中で精鋭主義だが、ことしも頑張って皆さんとともに1年をやり遂げようと思っている」と今年度の抱負を述べた。

部会別の取り組みで会と協力して衛生管理を指導する。

来賓には福田紀彦市長、日本食肉流通センターの高橋賢二理事長、神奈川県肉連の福岡伊三夫会長らが出席し、祝辞を述べた。続いて駒形和徳副理事長のあいさつで閉会した。



総会の冒頭あいさつする上野理事長

植村会長ら再選する

東京X協会が通常総会

TOKYOX―Association（会長＝植村光一郎・㈱ミートコンパニオン常務執行役員）は5月21日、東京都港区の東京プリンスホテルで通常総会を開催し、平成25年度事業報告や26年度事業計画などを承認。

任期満了となった役員改選では植村会長、糸瀬好弘副会長、中村敏章、小林和人、北村陽三、林実の4理事を再任し、新たに佐藤進一㈱京王プラザホテル八王子事業部総料理長を理事・監事に選任した。

植村会長は「25年度の生産・出荷計画では1万頭を目ざしたが、8247頭にとどまった。ことしは創立15年であるが、現在は飼養頭数が伸び悩んでいる。20周年がオリンピックの前年の年（2020年）なので、繁殖豚を5年間で2万頭生産体制を確立したい。東京だけでなくオリンピックを機会に世界に向けて情報も発信したい」とあいさつ。

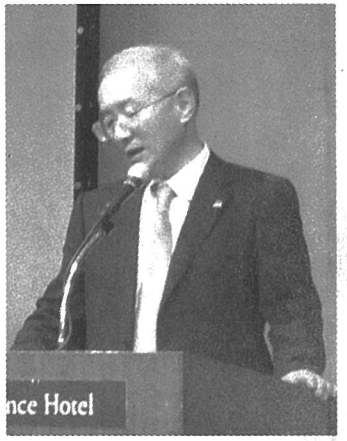
来賓では東京都議会の清水孝治議員が「冷めてもおいしく、このような豚なら私も支援したいと、都議会で舛添知事に豚肉について質問したら、イベリコ豚よりTOKYOXのほうがうまいといっていただいた。知事も何かとXを支援してくれている」とあいさつ。

東京都農水産部農業振興課の平野直彦課長、東京都農水産振興財団の松本義憲理事長、中央畜産会の菱沼毅副会長、日本獣医師会顧問で農場管理獣医師協会の北村会長もそれぞれ祝辞。

また創立15周年を迎えた記念行事として、都知事賞が元東京X生産者組合長の榎戸武司氏に、都農林水産振興財団理事長賞が青木清元生産組合長と兵頭勲農学博士に授与された。

さらに15周年記念講演として「TOKYOXの歴史とこれから、そして世界の友人の紹介」と題して、植村会長とハンガリーのマンガリッツァ豚を取り扱うパラノビチ・ノルバート氏の講演と質疑が行われた。

そのあと会場を移して消費者200人、関係者150人が一堂に会してTOKYOXとマンガリッツァ豚などを試食しながらの交流会となった。



「20周年には繁殖豚2万頭体制に」と植村会長

表彰される高崎畜産の担当者（右）

和牛の部は高崎畜産

最優秀賞　霜降り牛共励会

全国霜降り牛研究会（佐々木信弘会長）は5月22日、東京食肉市場で第11回枝肉共励会を開催。黒毛和種98頭（うち雌25頭）、交雑種24頭（11頭）が出品された。

審査の結果、和牛の部最優秀賞に選ばれたのは鹿児島県・㈱高崎畜産の出品去勢牛で、BMS№12、枝肉重量584㌔、ロースしん面積90平方㌢。「体型が詰まり、切開面のサシに迫力がある」との評価を受け㈱コシヅカがキロあたり3100円で落札した。

また、交雑種の部最優秀賞に選ばれたのは北海道・大阪畜産の出品去勢牛で、BMS№7、枝肉重量566㌔、ロースしん面積68平方㌢。小川畜産興業㈱が1404円で落札した。

優秀賞牛出品者は次のとおり。

【和牛の部】　長谷部将一（去勢、632㌔、2571円、購買者＝コシヅカ）、丸目英明（去勢、600㌔、2651円、乙川畜産食品）、㈲農業生産法人のざき（去勢、544㌔、2206円、同）【交雑種の部】　岩渕馨（去勢、558㌔、1350円、原田畜産商店）、サロマ牛肥育センター（雌、559㌔、1321円、丸全）